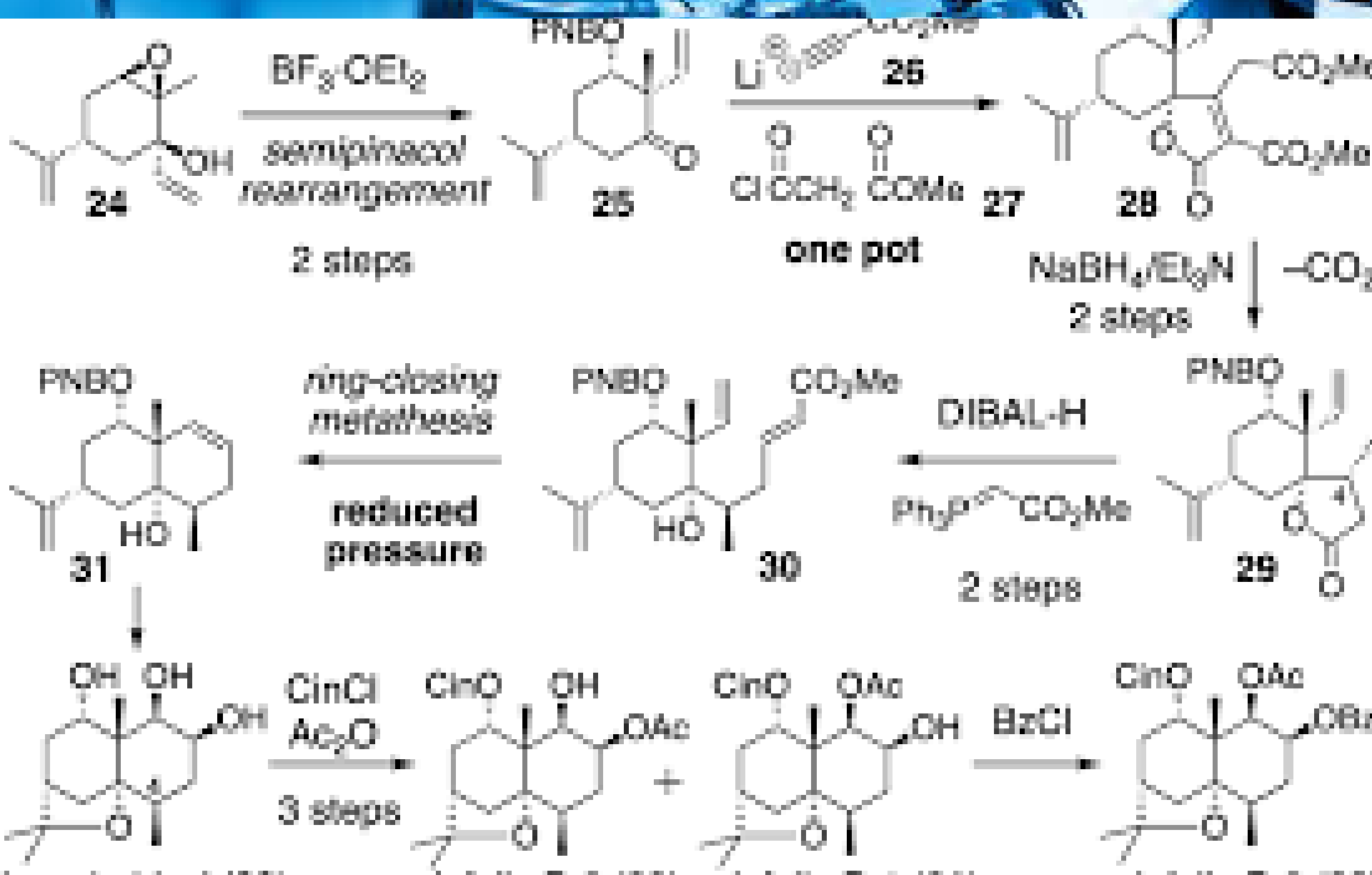
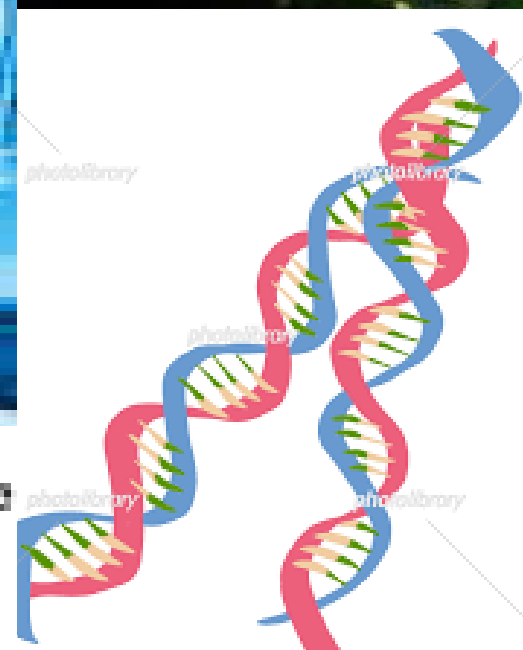


# クスリ・添加物

石油 化学物質



zero  plus



# 危険な甘味料

1.アスパルテーム

2.スクラロース

3サッカリン

4.アセスルファムK

5ステビア(植物由来もある)

神経系への影響や発癌性が指摘アレルギー

反応肥満やメタボリックシンドローム



# 酸化防止剤

長期的な摂取が健康に悪影響を及ぼす

発癌性が指摘、アレルギー

1. BHT(ブチルヒドロキシトルエン)
2. BHA(ブチルヒドロキシアニソール)
3. アスコルビン酸ナトリウム
4. プロピレングリコール
5. 亜硝酸ナトリウム



# 防腐剤

発癌性が指摘、アレルギー、喘息内分泌攪乱物質として、  
ホルモンバランスに影響腸内環境に悪影響を与える可能性

1. ソルビン酸
2. 亜硫酸塩
3. ナトリウムニトリット
4. 合成無料パラベン
5. プロピオン酸



# 保存料

発がん性のリスク、アレルギー、子供に対して行動問題を  
引き起こすことが報告神経系に影響を及ぼす可能性

- 1 亜硝酸ナトリウム
- 2 BHA(ブチルヒドロキシアニソール)
- 3 着色料(特にタール色素)
- 4 ニトロソアミングルタミン酸ナトリウム
- 5 ニトロソアミンニトロソアミン





# 増粘剤

## 消化不良のリスクがあるとされる

1. キサンタンガム
2. ペクチン
3. グアーガム
4. アラビアガム
5. カラギーナン



### キサンタンガム ってなに？

水と混合すると粘性が出ることから、  
増粘剤、増粘安定剤として幅広い用途で  
用いられています。



#### 化粧品への利用

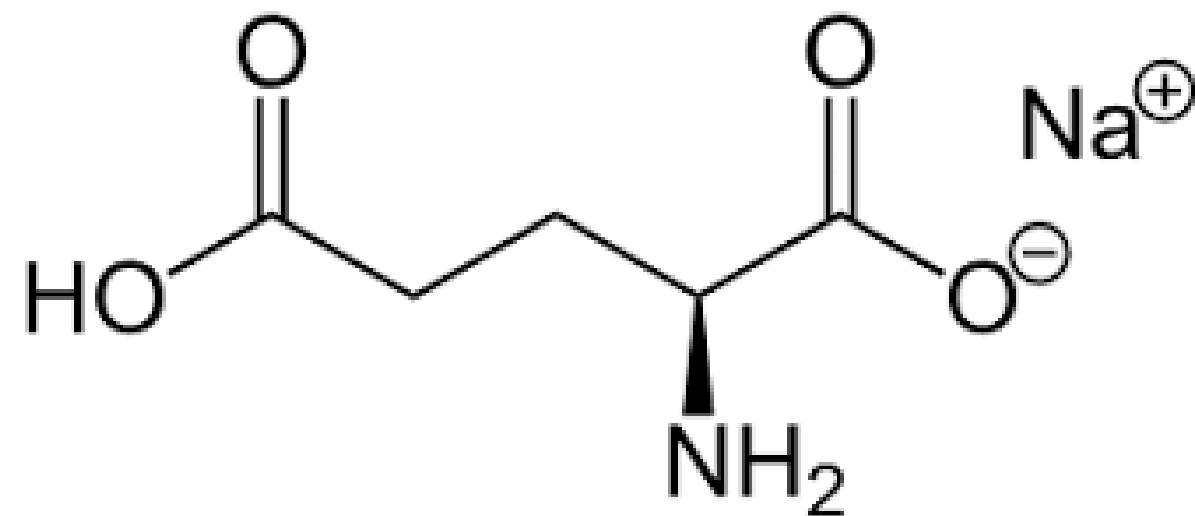
大手化粧品メーカー製の商品にも  
幅広く使われています。



#### 食品への利用

あんかけのとろみやタレ、サラダ  
ドレッシングなど多くの食品に  
添加されています。

# うま味調味料



# アレルギー―注意力や行動に影響を 与える可能性が指摘、発がん性



1. グルタミン酸ナトリウム
2. 亜硝酸ナトリウム
3. タール色素
4. 香料(合成香料)
5. 人工甘味料(アスパルテーム、スクラロースなど)

